

# 市立高校ヒアリングまとめ

市民参加の裾野拡大検討部会

(※第3回フォーラム会議資料からまとめ部分再掲)

## 市立高校へのヒアリングの概要

### 【教育委員会 指導部 学校指導課へのヒアリング】

### 【市立高等学校へのヒアリング】

○対象校：9校

○ヒアリング内容

- ・ 学校としての活動や授業の中で行われている地域のまちづくり活動，市政参加の内容（例えば，総合的な探究の時間を活用した活動など）
- ・ 上記の活動で地域や外部団体（大学，企業等）と連携している例（高大連携で取り組まれている授業や活動など）
- ・ これらの活動を行ううえでの成果や課題（外部団体との連携の仕方が分からないなど）
- ・ その他，主権者教育や新学習指導要領における「公共」の検討状況，課題など

## ヒアリング結果：学校の特色・方向性

- ・ 伏見工業高校・京都奏和高校：社会に出て自立できる人材の育成を目指している。
- ・ 京都工学院高校：「豊かな人間性」，「確かな技術」を身につけ，科学技術で地域貢献することを目指している。
- ・ 西京高校：エンタープライズシップにあふれた未来社会を創造するグローバルリーダーの育成を目指している。
- ・ 銅駝美術工芸高校：自由快活な校風のもとで，多様性を尊重し共に高め合い，美の精神をもって広く社会に貢献できる，高い理想をもった創造性豊かな自立した青年を育成することを教育理念としている。
- ・ 京都堀川音楽高校：心豊かで自立した人間であり，文化の発展に貢献できる人を育てるとともに，音楽力，学力，人間力をバランスよく育成することを目指している。
- ・ 堀川高校：「探究」は本校のキーワードであり，「自立する18歳」の育成を目指している。
- ・ 日吉ヶ丘高校：生徒像「世界をつなぐ越境者」を掲げ，社会を分け隔てている境目を超えてつながる価値観を広げたい。
- ・ 紫野高校：『「一步踏み出すGlobal Citizen」を育てる』を方針に掲げ，SDGsに力を入れている。
- ・ 塔南高校：「活気あふれる面倒見の良い学校」を掲げ，地域との連携に力を入れている。

## ヒアリング結果：市政参加の取組

- ・ 総合的な探究の時間での学習，教科の授業，特別活動等での政治的教養を育む取組

環境や教育課題等についてグループ単位で研究。市基本計画の出前パブコメの受入れ。市建設局と共同でバーチャルリアリティを使った災害対策を地域に説明など。模擬投票（NPO法人や大学生ボランティアの協力で開催），SDGsカードゲーム（教員が資格を取得して実施），模擬国連会議(国の代表となって交渉)など）等を通じたシチズンシップ教育

- ・ 地域と中学生が交流するふれあいトークへの協力（中学生や地域の人たちと交流）

※ 主な取組であって全校が取り組んでいるわけではない。次ページ以降も同じ

## ヒアリング結果：まちづくり活動

### (総合的な探究の時間)

- 区役所等の行政機関との連携（出前授業の実施。地域課題を調査して解決策を提案。）
- 商店街との連携（パッケージデザイン・チラシデザイン製作等。まちづくり企画。）
- 福祉施設・団体との連携（施設紹介パンフレット制作。高齢者とのワークショップの実施）
- 自主防災会との連携（防災訓練への参加，かまどベンチの製作・提供）

### (その他)

- 消防団との連携（防災訓練への協力。小学生との防災キャンプを実施。文化祭の出し物を合同で企画・実施）
- 清掃活動への参加（学区と連携。公園での清掃。登山道での清掃。）
- 部活動のパフォーマンス（吹奏楽，チアリーディング部，書道部など）
- 地元のお祭りへの協力（神社や地域団体などへの協力）
- 研修旅行先での活動（学校跡地を活用したまちおこし企画。企業，大学，被災地を訪問したフィールドワークの実施（生徒が企画から訪問先調整まで実施）。）

## ヒアリング結果：大学との連携

- 大学生によるティーチングアシスタント（総合的な探究の時間が多い。  
市独自の予算措置等により，多くの市立高校に配置）

### （授業外での取組）

- 大学の先生による出前授業（様々な大学と連携。対象授業も幅広く実施）
- 専門的な知識を大学の先生や大学生から学ぶ（避難所設営のシミュレーションの研究。防災センター視察）

## ヒアリング結果：企業との連携

- **企業への訪問**（企業を取材し，製品やサービス，経営者の話を聴取。企業家との交流会に参加。）
- **インターンシップ派遣**（地域企業への派遣。中小企業家同友会を仲介した企業への派遣。）
- **出前授業**（企業のSDGs，フェアトレードなどの取組を紹介。ユニバーサルデザインの作成体験。京都市の産業支援機関による取組の紹介やアントレプレナー教育の実施。建設業団体による耐火煉瓦づくり講義）
- **地域企業との協働**（地域産物の開発・販売。）

## ヒアリング結果：各種取組の効果

- 自治会活動に活気を提供（参加するだけで高齢者から好評。）
- 多様な大人との交流（地域や企業，保護者等との接点。学校運営協議会で取組発表の機会。消防団は対等の目線で生徒の企画に意見をもらえる。）
- インターンシップの社員研修効果（企業側も教えることによる学びがある）
- 大学との連携で生徒と学生の学び合い（高校生はフィールドワークを学び，大学生は卒論の材料を収集）

※ 生徒の成長効果は様々あるとのことで省略

## ヒアリング結果：取組における課題

- 社会や地域に対し提案するが、行動化（解決に向けた活動）につながっていない（地域・社会課題の調査や課題解決の提案にとどまっている。）
- 外部や専門家との関係づくり（深い学びには専門家からの説明や指摘が必要。学校教育に対しては外部の方々はかなり協力的。市役所の情報が遠い。）
- 政治的教養を育む取組では、政治的中立性を保って授業を実施（発言に留意する必要がある）
- 新たな予算の獲得は容易ではない（文科省関連は企画・報告書が膨大。実績と全国への波及等も必要。民間の公益法人等の支援獲得も行っている。）
- 先生への負担の増加（特に土日の活動には留意が必要。引率等による安全確保の必要性。外部との連携窓口が一部の教員に集中。）

## ヒアリング結果：取組における留意点・要望

- 生徒の自主性の保持(生徒の企画は発想が面白い。生徒が主体的に工夫することが学ぶ楽しさの発見につながる。)
- 生徒には実体験が大切(政治的教養の関連だと生徒会活動を通じた学校ルールの変更など)
- 研究内容は生徒の自主性に任せる（生徒によっては温暖化などの社会課題や空き家などの地域課題が選ぶが誘導はしない。テーマを定める場合は手上げ方式で募って実施。)
- 外部の方から課題の設定，専門知識の提供，生徒の発表内容の講評は効果的（生徒の課題意識を広げることは大切。探究の深化には専門知識が必要。生徒同士の講評だけでは気づきも限定的。)
- 外部との連携を強めたい（S I L K，区役所（スピード感のある実務担当者との連携。他区とも連携望む。）)
- 個別の高校と外部機関が組むのではなく，市立高校（集合体）と関係機関や業界団体と組むと市立高校全体へ効果が波及され，各校単位の負担も減らせる。
- 市立小・中学校と連携できる強みが市立高校にはある（生徒が教育実習に参加。防災訓練の協力・実施。）。

## 市立高校へのヒアリングまとめ

- ・各高校が特色を活かした取組を授業，課外活動で実施されている。
- ・地域，行政，大学，企業，NPO等との連携状況は高校の方針による。専門性（デザイン，ものづくり）があると連携がしやすい。
- ・外部の連携先の見つけ方は様々だが，先生の個人的な伝手の場合もある。
- ・来年度からの新学習指導要領の開始に向けて，いずれの高校も連携の必要性を感じておられる。
- ・費用面では，教育委員会の予算や民間の補助金等，予算を取ってきてやりくりされている。
- ・いずれの高校も教員の働き方改革への課題を感じておられるが，地域等との連携に関しては，前向きに考えておられる。

## 教育委員会 指導部 学校指導課へのヒアリング結果

### 【取組内容】

- ・社会の時間、ロングホームルーム等で取り組んでいる。また、総合的な探究の時間も活用。
- ・その他生徒自身が自発的に活動される事例も。
- ・「公共」の授業については、来年度の入学生が2年次までに終わればよいため、来年度1年次に置く学校は半数程度。
- ・公民科は、週2時間（50分×2）しかないため、ワークする時間が十分にとれないことと、アクティブな授業の在り方は更なる研究が必要。
- ・一部の地歴・公民科の若手教員グループ（研究会）が継続的に授業研究等で活動している。
- ・選挙年齢引き下げに合わせてH28年度から独自に主権者教育の冊子を配布し、政治リテラシー育成、地域、市民と一緒にまちづくりに参加することを推進。

### 【京都市独自の取組】

- ・教育委員会が示す指針「学校教育の重点」を毎年度更新して全校園に周知。
- ・学校運営協議会ははじめ地域との連携は積極的に行っており、高等学校における学校運営協議会の設置は、来年度から法制化される。
- ・政治的教養の取組には独自に予算化されており、学校の取組に対して配分している。

### 【その他、課題等】

- ・京都市以外にも色々な団体と連携している中で、市政に限った連携はあまり魅力的でないかもしれない。市政だけでなく、社会全体に興味を持ってもらう、シチズンシップ教育の要素があると良い。
- ・授業の年間計画があるので、早めに相談し、授業時間内でうまく取り入れられる形が望ましい。
- ・高校で対話型パブコメや出前トークを活用している事例がある。

## 市立高校へのヒアリング結果（1）

## 伏見工業高校・京都奏和高校

## 【特色，方針】

・京都奏和高校は，多様な学習ニーズに応える新たな定時制高校として今年の4月に開校。様々な困りがありながらも，集団で学びたいという生徒を受け入れている。

## 【取組内容】

・伏見工業高校は，現在，生徒募集を終了し，2，3，4年生のみ在籍。定時制で府内唯一の工業科。まちづくり，ものづくりに関心を持つ生徒も多く，土木コースの学生が「鴨川運河」の深草エリアを中心に活動する地域団体と連携した実績がある。

・まちづくり活動に興味のある学生を有志で募って活動する深草クラブという部活動がある。深草商店街の朝市に部活動として参加した。

・京都奏和高校は，社会の一員として自立できる人材の育成を目指し，様々な人と出会うことを大切にしている。社会に出た時に困らないための経験をさせるべく，学校外の方との関わりを強く意識している。

・中小企業家同友会にインクルーシブ部会があり，夏にインターンシップに10数名参加したり，社会人セミナーも実施。2月には企業の方との交流会を実施予定。

・ユースサービス協会には，集団で学ぶことを大事にしてもらおうと，生徒向けのレクリエーション企画やイベントを実施してもらっている。

・学生ボランティアが授業のサポートを行っている。

・キャリア研究という授業がある。自分のことを知り，社会での自分のあり方を知る，社会に出る準備をするというステップで考えている。

・1年生の現代社会の授業で，模擬選挙を実施した。

## 【その他，課題等】

・生徒が就業した後も，社会人として育ててもらえる企業とつながりたいし，つないでいきたい。

・就職に向けては，自分の得意分野を活かして活躍している社会人の先輩の話が聞けると良い。

## 市立高校へのヒアリング結果（2）

## 京都工学院高校

## 【特色・方針】

・「無から有を作り出す」をスローガンに掲げ、科学技術で地域貢献することを目指している。

## 【取組内容】

- ・総合的な探究の時間を活用し，1年生はクラス単位で，2年生は学科を超えてゼミ活動を行う。
- ・プロジェクト工学科は2年生以降，建築・都市・機械加工・ロボット・電気・電子の専門領域に分かれるが，領域横断的な学びが本校の特色である。
- ・建設局の依頼でVRを使って災害対策を地域に説明する機会があり，VRの製作を担った。
- ・自主防災会や企業との連携で，かまどベンチを耐火レンガで作った。
- ・複数の大学と連携し授業を行っている。
- ・深草支所の若手職員の協力でグループワークを実施している。
- ・地域のお祭りや地蔵盆などにも協力している。

・課外の実践活動として深草トレイルの清掃活動に参加し，ごみを拾って終わりではなく，地域の実態を学びにつなげている。

・2年生で企業への3日間のインターンシップがある。約90社にご協力いただいている。

・企業側との連携事例は他にもあり，若手の社員研修の一環にもなるという声をいただいている。

## 【その他，課題等】

・休日に教員が引率する時間と労力は，やりがいとセットになる。教員も生徒もメリットを感じると負担にならないケースが多い。

・生徒の成長のために，同じベクトルを向いて企業や公的機関と関係ができると良い。

・市立高校が連携し，類似した取組を取りまとめることができれば，各校が年度ごとに順繰りに担当者を出すなど，コストを分散してよりよい取組にできる可能性がある。

## 市立高校へのヒアリング結果（3）

## 西京高校

## 【特色・方針】

- ・ 「エンタープライズ教育をベースとした社会人力の育成」を特色とする。

## 【取組内容】

- ・ 総合的な探究の時間は、環境問題や教育問題など多岐にわたる課題研究をグループワークを中心にゼミ活動を通じて実施している。
- ・ 自主性を伸ばす活動を通して、当事者意識の向上や社会に出る上で必要なスキル獲得の練習につながっている。
- ・ コロナの影響で、国内でのフィールドワークとなり、国内の7地域を訪れるコースをゼロから生徒が作りあげた。
- ・ 行先は、企業、被災地、高校・大学など、生徒が決めている。事前学習で仮説を立てて、フィールドワークを行い、現場に行き、どう考え方が変わったのか、どう活かしていくのか、自身の考え方の変容を中心に発表会も実施している。

・ フィールドワーク委員会を立ち上げて、各コースの活動内容や訪問先の設定など生徒自身で検討して企画・運営している。これらの活動を通して、興味関心を広げて、経験を積んでいってもらう。

・ 8つのゼミ活動（人文科学、情報学、社会科学、国際学、経済学、健康科学、生命科学、環境科学）を用意しており、各ゼミを先生2名と大学生や大学院生のティーチングアシスタントが担当している。

・ 生徒自治会でプロジェクトを主催し、民間企業と連携して、オリジナルの「西京飴」を開発・販売した。売上は生徒の判断で京都市に寄付した。

## 【その他、課題等】

・ 社会のしくみを生徒が知る機会がない。例えば、教育機関だけでも国（文科省）、京都市（教育委員会）、民間などいろいろな機関がある。

・ 市民参加を考える場合には、授業の中では難しいため、自主的に行きたいという生徒を手上げ方式で募って実施することになる。

市立高校へのヒアリング結果（4）

## 銅駝美術工芸高校

### 【特色・方針】

・ 市政参加に特化した特色・方針としては、「社会に開かれた教育課程」を重視し、生徒には知識や技術を身につけるだけでなく、美術を通して社会とどう関わっていくのかを意識した教育活動に取り組んでいる。

### 【取組内容】

・ 1年生では総合的な探究の時間において、美術館や博物館と連携し、展覧会を企画することで視野や考え方を広げたり、アートがこれからの社会で果たす役割などの学びを深めている。また、2年生では企業と連携し、美術だけでなく、様々な分野について理解を深め課題解決する取組を行っている。

・ 2, 3年のデザイン専攻では、生徒が商店に向き、パッケージデザインの制作や、企業の雇用促進ポスター、パンフレットの制作等の取組を行っている。

・ 生徒の作品を高齢者施設や小学校に展示し、大変好評を得ている。

・ ボランティア活動として、中京警察署の依頼に対して、啓発ポスターやチラシのデザインを作成した。

・ 生徒の学びにつながるような依頼については、校内で精査して受けるようにしている。

### 【その他、課題等】

・ 現在、連携があまり進んでいない幼稚園、保育園、小学校、中学校との連携を強めていきたいと考えている。

・ 2023年4月、京都駅東側、京都市立芸術大学（京都芸大）に隣接した地に移転するため、大学と連携した様々な取組を行う予定である。

・ 制作活動が社会とつながりにくい分野の専攻もあるため、積極的にその機会を創出することが必要と考えている。

・ 外部連携先との渉外や企画・調整の中心となる分掌を早期につくることが喫緊の課題である。

## 市立高校へのヒアリング結果（5）

## 京都堀川音楽高校

## 【特色・方針】

- ・音楽の専門教育を行う高校として、生徒が将来、幅広く音楽専門家として活躍し、世界の文化の発展に貢献できる人となるための基礎力を培う。
- ・国立をのぞく公立の音楽高校としては、全国で唯一の音楽科単独の高校である。

## 【取組内容】

- ・地域の方とともに「京都市異音楽フェスティバル」を年1回実施。グラウンドでは、地元の方の様々なジャンルの音楽演奏や模擬店、ホールでは本校生徒のオーケストラ・合唱のほか、地元PTAコーラス、京都市少年合唱団、京都子どもの音楽教室等の多彩な演奏を市民の方に楽しんでもらっている。
- ・年間数回、地元の方も含めた実行委員会で、同フェスティバルの運営について話し合っている。
- ・地元の方に向けた「敬老の日コンサート」「ひなまつりコンサート」に卒業生や生徒が出演している。
- ・「現代社会」の授業では模擬投票に取り組む。

・新しい「総合的な探究の時間」の試行として「日本と音楽」という大テーマの下、1年生が各自「問い」と「仮説」を立てて検証、考察、発表する活動に取り組んだ。

・数年前、本校生徒が塔南高の校歌CD制作を行い、伏見工業高（現・京都工学院高）住環境システムコースの生徒が本校の校地の一角に憩いのスペースを設計するという連携があり、市立高校間の生徒の交流が生まれた。今年堀川高の校歌CD制作を行う。

・毎年4月に京都市図書館4館での「0歳からの絵本コンサート」に有志の生徒が協力し、司書の方の読みきかせに演奏で参加するボランティアに取り組んでいる

## 【その他、課題等】

- ・音楽の学習は、練習に非常に多くの時間をかけなければならないが、地域の活動にはなかなか参加できていない。（その分、地元の方々の日頃の応援やご協力に対しコンサート等を通じて音楽をお届けすることに取り組んでいる。）
- ・今年度、学校運営協議会を設置し、市内の小中高の音楽関係者や音楽関係機関に参加してもらい、京都市の音楽文化の発展に向けて取り組もうとしている。

## 市立高校へのヒアリング結果（6）

## 堀川高校

## 【特色・方針】

・自分が知りたいと思うことを見つけ、明らかにしていく「探究」を特色とし、多様な価値観に触れ、対話を通じて相互に受け入れることができる「豊かな学校」を目指す。

## 【取組内容】

・探究の授業は、1年生の前期で探究の基礎を学び、後期はグループに分かれて実験的に取り組み、2年生は各自でテーマ設定をして進めていく。

・探究の授業も研修旅行も生徒がグループを立ち上げ、計画・振り返りや連絡調整を自分たちで行っている。組織作りから始め、対話しながらマネジメントも行っている。自分がやることで周りも変わる実感が得られる。

・土曜日に中学生を対象に探究を知ってもらうワークショップ「探究道場」を開催している。生徒が自分たちの探究の取組について言葉で説明するのは意外と難しく、生徒にとってもプラスになっている。

・論文作成を経験した大学院生にTAとして探究の授業を手伝ってもらっている。

・昨年度、市職員に来てもらい対話型パブコメを実施した。自分が出した意見が取り入れられる経験をするのも良いと思う。

## 【その他、課題等】

・企業やNPO等とのつながりは少ないが、来年度以降の授業に向けて連携先は必要だと考えている。

・NPO団体に限らず、市の職員に話に来てもらい、具体的な仕事の様子を聞いて、実際の職員と話ができるのは生徒にとっても面白いと思う。

・生徒にとっては、市役所職員がどのような課題に対してどのようなモチベーションで、どのように解決したというような話をしてもらおうと刺激になる。

・目標を立てて、やってみて、うまくいかなかったらまた別の方法でやってみるのが大事。勉強や取組に対するモチベーションの向上にもつながる。

## 市立高校へのヒアリング結果（7）

## 日吉ヶ丘高校

## 【特色・方針】

・「世界をつなぐ越境者」を生徒像として掲げ、社会を分け隔てている性別、国籍、人種などの境目を超えてつながる、という価値観を広げることとしている。

## 【取組内容】

・2年生が研修旅行先で、廃校となった高校跡地を活用したまちおこしを考えた。企業にプログラムを作ってもらい、跡地活用に向けて脱炭素社会、サーキュラーエコノミーなどをも勘案したアイデアを考えた。

・総合的な探究の時間には、SDGsの17のゴールを学びのきっかけにし、社会課題を知る活動や、高校生なりの解決策を提案する活動をしている。

・TAの方に来てもらって、探究の授業を手伝ってもらっている。教職を目指されていて熱意がある。

・企業、NPO等との連携にも力を入れており、先方へのアポ取り、訪問目的の説明などを生徒に経験させている。また、出前授業などもしてもらっている。

・政治的教養の授業では、弁護士による生活関係の法律、消費者として注意する点などを学べる講座を開催した。

・英語村「HELLO Village」を学内に設けて、英語というツールで何ができるかを学んでいる。

## 【その他、課題等】

・教員の負担増は問題であるが、教員が生徒を最も理解しているとの意識があるため、外部の連携先にプログラムの企画を完全に任せるのではなく、教員の勤務条件の中で時間を作って関わりたい。

・市の事業の資料があれば助かる。先生方も前向きに取り組んでおり、いろんな情報を知りたがっている。

## 市立高校へのヒアリング結果（8）

## 紫野高校

## 【特色・方針】

- ・「一歩踏み出すGlobal Citizen」
- ・SDGsをテーマとした教育を特色としている。

## 【取組内容】

・学校周辺に寺社仏閣があることから、総合的な探究の時間を活用して、1年生はフィールドワークを行い、大徳寺や今宮神社などの歴史的な成り立ちや由来、行事などを調査・発表する。2年生は、個人で課題を設定して研究、発表する取組を行っている。

・SDGsを特色としているため、総合的な探究の時間は独自に作成したテキストを活用している。

・「公民」の現代社会の項目で、主権者教育にあたる内容を実施している。

・「実践社会」では、シチズンシップ教育、コンピテンシー能力、SDGsカードゲーム、模擬投票、模擬国連などを行っている。ワークショップ形式での実施も多い。

・SDGsカードゲームのファシリテートには、資格が必要であるため、教員が資格を取得した。

・サステナブルな取組をされているアパレル企業の方にコーディネーター役として授業を行ってもらった。

・いくつかの単元では、大学の研究室で大学の先生の講義や実験・実習を受けさせてもらっている。大学院生にTAとして生徒に個別にアドバイスをしてもらっている。

・地域のお祭りや清掃活動などのお手伝いをしている。

## 【その他、課題等】

・自治連や区役所との関係性を持っていないが、新学習指導要領の実施に向けて関係性づくりをしていきたい。

・北区内で顔つなぎや情報共有の場があるとよい。

・ゲストスピーカーや外部との連携などでは、継続的なアドバイスをいただける、若手の新たな連携先の開拓の必要性を感じている。

## 市立高校へのヒアリング結果（9）

## 塔南高校

## 【特色・方針】

- ・「なりたい自分」を探し、深める
- ・コミュニティ・スクールとして、地域連携を特色に掲げている。

## 【取組内容】

- ・教育みらい科のカリキュラムでは、小学校で学校現場実習を実施している。
- ・ふれあいトークに参加して中学生や地元の方と交流したり、小学校で防災キャンプを小学生と一緒に取り組んだりしている。
- ・大学生を中心としたNPO団体に選挙に関する授業の協力を依頼し、政治的教養を育む取り組みを実施している。
- ・社会人はどんな意識で働いているかを学ぶため、企業訪問を行う「未来デザインプログラム」という取組を実施している。単なる訪問ではなく、事前の経営者による講話やマナー講座等を経て、本番を迎える。企業開拓は、中小企業家同友会や高校コンソーシアム京都に協力を依頼した。

- ・学区の一斉清掃や図書館でのイベントに、有志や部活動が参加している。
- ・防災ボランティアリーダー（任意）が地域の防災イベントで活躍している。「防災」をキーワードにすることで、理系の生徒も文系の生徒もアプローチしやすい。

## 【その他、課題等】

- ・地域での活動は、土日祝が主な活動日となる。働き方改革と教員の休日出勤の両立が困難である。
- ・有志で集まる生徒はモチベーションが高く、自主性が高い。それらの活動をカリキュラム化することで、多くの生徒に学びの機会を広げられるが、もともとの良さが失われる可能性がある。
- ・主体性を育成するのは大切で、生徒が自主的に作った企画の方はおもしろい。教師が意見するとおもしろくなくなる。
- ・生徒のポスター発表の機会に、外部評価者として参加していただくと生徒の学びの機会が増える。